

「青年海外協力隊」

猪野 孔太

INO Kota

PROFILE

1986年高知県出身。高校卒業後、自動車部品メーカーに就職。退職後、2011年6月から2年間、青年海外協力隊(電気・電子設備)として南アフリカで活動。

「保全マン」として 協力隊に参加

「導線をつないでランプを点灯させてみよう！」
 ここは南アフリカの職業訓練校。電流の流れる向きに合わせて、生徒たちが導線とスイッチ、ランプをつないでいく。スイッチを入れてみると。パッと明かりがついた。その瞬間、歓声にわく教室。嬉しさのあまり、何人かが踊り始めた。
 そんな活気あふれる実習を担当するのが、青年海外協力隊員の猪野孔太さんだ。

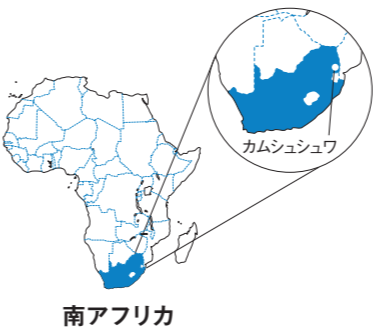
JICA Volunteer Story



実習でモーターの仕組みについて説明する猪野さん。生徒たちは興味津々だ(撮影：渋谷敦志)

「実習を通じて、技術を身に付けてほしい」

アフリカの中でも、経済成長が著しい南アフリカ。この国の工業化を支える人材を職業訓練校で育成すべく、青年海外協力隊の猪野孔太さんは実習の導入に取り組んだ。



工業高校を卒業後、自動車部品メーカーに就職した猪野さん。会社の研修所で電気機器の組み立てや修理方法について学び、工場の機械を管理する「保全マン」となった。一方、人の役に立ちたいと、プライベートでは介護ボランティアなどにも参加していた。「日本にこれだけ助けを必要としている人がいるなら、開発途上国ではどうか?。そう思い始めたんです」。自分の技術で途上国の人たちの役に立てないかと、協力隊への参加を決めた。

実習の導入で 生徒のやる気を引き出す

配属されたのは、南アフリカ東部のカムシュシュワにある職業訓練校。アフリカの中でも成長が著しいこの国の工業化を支える人材育成の場だ。

猪野さんが任されたのは、電気機器の修理や配線の技術などを学ぶ電気科の授業だった。「最初に来た時、ここは本当に職業訓練校なのか?と驚きました」と猪野さん。実践的な技術を指導し、卒業後に即戦力として働ける人材を育てるのが職業訓練校のほず。しかし、この学校では座学がほとんど。機材や教員が足りず、実習が行われていなかったのだ。生徒は思うように技術が身に付かず、やる気を失い、授業をサボるようになっていた。そうなるも当然、卒業しても就職は難しい。そんな「負のスパイラル」に陥っていた。

これを断ち切るには、実習の機会を増やすことが必要。そう考えた猪野さんは、まず、実習に使う機材を確保することにした。ランプ、導線、スイッチ、工具…。実習室の倉庫には、壊れたり古くなった機材がガラクタとして山積みになっていた。「どれも捨てるにはもったいない。よく見れば使えるものもある」。



a. 手作りの電気パネルを使って電気回路の仕組みを指導。実習の課題は生徒のレベルに合わせて設定している
 b. 実習室の倉庫に積まれた教材や工具を整理整頓する
 c. 猪野さんの手にかかればガラクタもこの通り。段ボールを土台にランプの配線を学ぶ機材を製作
 d. 生徒からの要望に応じて、放課後や休日にも補習授業を行った

ここからが保全マンの本領発揮。壊れた電気機器を分解し、部品を再利用して新たな機材としてよみがえらせる。電気回路を学ぶために必要なパネルがあれば、段ボール箱を土台に活用するなど、工夫を凝らして機材を作っていた。

しかし、次に問題となったのが機材の管理だった。ある日のこと、実習後にドライバークラスの本拠地。猪野さんは、「ドライバークラスは機械を直すのに欠かせない道具。戻ってくるまで実習はできません」ときっぱり伝えた。ドライバークラスはなくなったのはクラスの連帯責任。猪野さんは彼らに「気づいてほしいかった。猪野さんのぶれない姿勢に、生徒たちが動いた。ドライバークラスはジュース一本くらいの値段。犯人は名乗り出なかったが、「コウタの実習を受けたい」と、みんなが弁償することにしたのだ。この話は他の電気科の生徒にも広まり、盗難がピタッとなくなった。

さらに猪野さんは、実習をより充実させるために、同僚の教員たちと積極的に協力。彼らが授業に集中できるように、事務作業を手伝ったり、実習のやり方を教えたりした。「座学で得た知識を実習で試せば、生徒はすぐく勉強になるし、楽しいものです」とほほ笑む猪野さん。学習意欲も高まり、実習の授業にも活気が出てきた。その話を聞き、地元企業の技術者などが実習の視察に訪れるように。生徒が技術を身に付け、就職へとつながっていく。そんな「正のスパイラル」が生まれてきたようだ。

「こういう授業をみんな求めていたんです」と生徒たち。「自分の努力が認められたようで、とても嬉しかったです」と猪野さんは話す。彼が導入した実習、何事にも屈しないプロの技術者の精神はこれからも引き継がれていくはずだ。